

日本気象学会

九州支部だより



No.129 2015年12月

掲載内容

- ◆ 子どもたちの気象への興味を育むために
「第6回こども気象学会」報告
- ◆ 気象サイエンスカフェのお知らせ（福岡、鹿児島）
- ◆ 九州支部発表会のお知らせ
- ◆ 支部会員からの便り
「平成27年夏、鹿児島県の記録的な大雨と台風」
- ◆ 事務局からのお知らせ

子どもたちの気象への興味を育むために — 「第6回こども気象学会」報告 —

平成27年10月25日（日）、福岡市早良区の九大西新プラザにおいて気象学会九州支部（以下「九州支部」といいます）と福岡管区気象台の共催で「こども気象学会」を開催しました。

この「こども気象学会」は、夏休みの自由研究や学校のクラブ活動などを通して、小学校の子どもたちが気象に親しみ自ら気象について調べ発表する楽しさを体験する機会を提供することを目的に、毎年秋に開催しているもので、



今回のポスターと、表彰式・発表会の会場となった九州大学西新プラザ

今年度で6回目を迎えました。

“九州”支部が主催している取り組みですが、諸般の事情により対象は原則として福岡県内の小学生としています。応募の締め切りは9月下旬ですが、夏休みの自由研究を主な対象として想定していることから、夏休みに入る前に福岡県内の小学校に対して案内を送付しました。昨年度までは県内のすべての小学校（約 750 校）に送付していましたが、過去 5 回の実施状況を見ると、応募の実績がある学校は 50 校程度（複数回の応募がある学校が多い）と限られる一方で、そのほかの約 700 校からは5年間で1回も応募がないというように偏りが大きいことから、今年度は過去に応募実績がある学校に絞って直接案内を送付しました。その一方で、従来は学校からの応募に限っていたものを、今回は学校を通さず個人でも応募できるよう入口を広くする見直しも行いました。九州支部のホームページにも案内を掲示したので、個人からはホームページを見て応募した方が多かったと思われます。



作品の展示

一部の例外的な年を除いて、応募数は例年 20 件前後ですが、今年度も同様に 18 件の応募がありました。市町村別に見ると、福岡市 3 名、北九州市 12 名、小郡市 1 名、新宮町 1 名、千葉県佐倉市 1 名となっています。例年北九州市からの応募が多く今年度もこの傾向が強くなっていますが、この理由は良くわかりません。なお、今年度は特例的に千葉県からの応募もありました。また、学年別には、3 年生 2 人、4 年生 3 人、5 年生 6 人、6 年生 7 人と高学年が多数を占めています。現在の小学校の学習指導要領では理科において 5 年生で天気と雲について学習するようになっていることから、高学年になって本格的に気象に興味を持つものと考えられます。

応募作品は 4 人の審査員（横手支部長、廣岡支部常任理事、永田支部理事、および発表会で司会を務めていただいた気象予報士の坂本京子さん）に審査を行っていただき、こども気象学会賞（2 人）、審査員特別賞（2 人）、アイデア賞（2 人）、調査研究賞（3 人）、そして奨励賞（9 人）の受賞者を決定しました。

冒頭にも書いたとおり、10 月 25 日（日）に表彰式と受賞作品の発表会を行いました。表彰状の授与、研究発表のほかに作品の展



坂本気象予報士によるお天気クイズ

示、気象予報士によるお天気クイズ「知っと〜と？」なども行われ、受賞者のほか付き添いで参加されたご家族にも気象への関心を持っていただく良い機会になったのではないかと思います。

最優秀賞に相当する「こども気象学会賞」を受賞した2人の研究の概要について紹介します。（ここでは作品の要点を事務局で簡潔に取りまとめているため、原文とは文字使いや用語が異なる部分があります）

石丸風佳さん（北九州市立南小倉小学校6年生）

『虹について』

庭の花に水やりをしている時にできたきれいな虹を見て、虹の不思議について調べてみることにした。

まず本を読んで虹はどのようにしてできるのか調べた。太陽から届く光には色が付いていないように見えるが、実はいろいろな色の光が混じったもの、これが雨上がりなどに空に浮かんでいる水滴に当たると、水滴の中で屈折や反射され、このとき色によって少しずつ違った方向に曲げられるため、色別に分かれて見えることがわかった。このため、虹が見えるためには、虹ができる方角に水滴があること、太陽が自分の背中のほうにあることが必要で、太陽が低い位置にある朝や夕方に特に良く見える。

次に、虹ができる条件を調べるために、ホースで空に向かって水をまいて、水を出す方角や高さ、水の量を変えて虹のでき方を調べ、そのときの気温や湿度、天気などを記録した。いろいろな条件で比べることができるようにこの実験を夏休みの間に11回おこなって、虹の出方について調べた。

この結果、虹は太陽が出ていない曇りの日には出ないこと、水の量が多いとききれいな虹が出ること、太陽の位置や高さ、水を出す角度が変わると虹の大きさや高さ、角度などが変わることなどがわかった。このほかに、気温や湿度、PM 度数（大気中の微粒子の濃



こども気象学会賞を受賞した
石丸風佳さんの発表



虹はどうしてできるのか



水まき用のホースを使った虹を作る実験

度)などとの関係も調べたが、はっきりした関係はなかった。また実験していると虹の外側にもう一つうすい色の虹ができることがあった。これは光が水滴の中で1回多く反射しているためで、色の並び方が逆になっていることがわかった。



水まき実験でできた虹



虹(主虹)の外側にできたもう一つの虹(副虹)

芳賀香里さん(北九州市立企救丘小学校4年生)

『天気と湿度 ～髪の毛の長さは変わる?～』

天気によって髪の毛にくせが出たり、天気が悪い日に学校の掲示物がたるんでいるのを見て、自分の髪の毛を使って、髪の毛の長さや天気や湿度の関係を調べることにした。

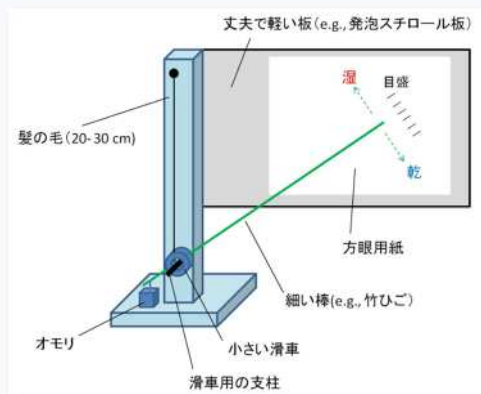
北海道大学大気海洋物理学・気候力学コースのホームページに紹介されているものを参考にして、自分の髪の毛を使って毛髪湿度計を作った。髪の毛を結んだり、竹ひごと滑車の位置の調整が難しかった。

夏休み期間中の約10日間、毎日9時、14時、19時の3回、そのときの竹ひごの先端の位置を方眼紙に書き込み、天気を観察し、気温、湿度を測って記録した。気温と湿度は家にあった温度計と湿度計が一緒になっているものを使って測った。

その結果、湿度によって髪の毛の長さが変化していること、晴れていたら湿度が低いこと、また一日の中でも朝と夕方が湿度が高いことがわかった。

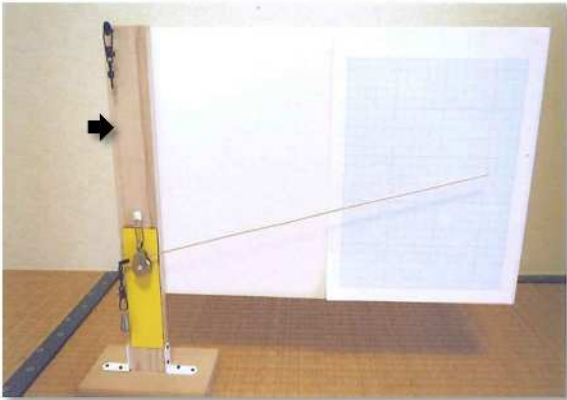


こども気象学会賞を受賞した芳賀香里さんの発表

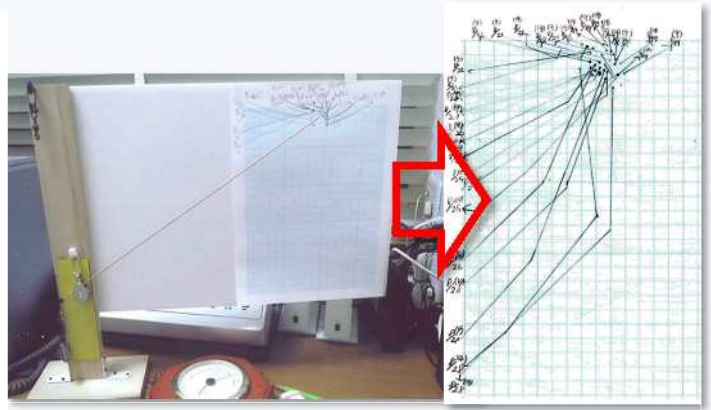


毛髪湿度計のしくみ

(北海道大学 環境科学院 地球圏科学専攻大気海洋物理学・気候力学コースホームページより)



自分の髪の毛（矢印）を使って製作した毛髪湿度計



毛髪湿度計で測った毎日3回、約10日間の竹ひごの先端の位置の記録

この取り組みは気象学会の社会貢献の一環、つまり子どもたちに気象への関心を高めてもらうための普及啓発の取り組みとして行っているものです。例年、工夫を凝らした実験や、夏休みの期間中1日も欠かさず続けた観察や測定など「力作」が多く、このような「力作」が毎年こども気象学会賞に選ばれています。しかし一方で、最近のネット社会を反映しているのか、インターネットや図書、新聞などで収集したいわばバーチャルな資料を整理しただけのものも見受けられます。

子どもの頃に自然科学に関心を持つためには、まずリアルな自然に触れ、その中で不思議なことを体験し、面白そうなことを発見して、それをいろいろな方法で調べてみるという過程が必要ではないでしょうか。こども気象学会の目的は、自然に触れるための絶好の機会である夏休みの自由研究を対象として、学校における学習だけでは経験することが困難な実験や長期間の観察・測定などに取り組むためのきっかけあるいは励みとなることです。この目的を達成するためには、リアルな自然に触れるという自然科学の入口に子どもたちをどのように導くのかということが課題になりそうです。また、これが夏休みだけの一過性のものにとどまらず、子どもたちの気象に対する好奇心や自然に対する興味が中学校や高校まで継続し、できればその後の進路にまで影響を与えることを、気象学会として、そして担当者（事務局）として願っています。これは若者の理科離れの防止や、気象分野の人材の確保・育成に少しでも貢献するという気象学会が行うこのような取り組みの目的でもあります。

なお、今回のこども気象学会には、福岡県、福岡市、および北九州市の各教育委員会に後援いただきました。

（九州支部事務局）



応募者、審査員の集合写真

九州支部主催行事のお知らせ

申し込みが必要です

「第 3 回 気象サイエンスカフェ in かごしま」 ヒトは生き残れるか？ 地球温暖化・100年後の未来

コーヒーやケーキを楽しみながら、地球温暖化が進むと将来の地球はどうなるのか一緒に考えてみませんか？

1. 日時：平成 28 年 1 月 30 日（土） 15 時 30 分～17 時 00 分
2. 場所：マルヤガーデンズ 7F garden 7（鹿児島市呉服町 6-5）
3. 講師：清水 建司さん（一般財団法人 鹿児島県環境技術協会 企画監）
4. 案内人：塚越 礼奈 さん（KKB 鹿児島放送アナウンサー）、
高橋 隆三 さん（気象予報士）
5. 申込み：平成 28 年 1 月 28 日（木）まで

定員 30 名になり次第受付を終了します（先着順）

※ 申し込みはメール or 電話 or FAX で、参加者氏名・参加人数・代表者（ご本人）の連絡先（電話番号・メールアドレス）をお知らせください。

6. 参加費：500 円（ドリンク代）
7. 主催者：日本気象学会九州支部、鹿児島地方気象台、
日本気象予報士会鹿児島支部
8. 連絡先：鹿児島地方気象台

Tel：(099) 250-9912

Fax：(099) 255-4234

Email：kagoshima@met.kishou.go.jp



マルヤガーデンズ 7F garden 7



鹿児島市呉服町6-5

九州支部主催行事のお知らせ

申し込みが必要です

「第7回 気象サイエンスカフェ in 九州」 南極観測から地球環境を診る

「第7回気象サイエンスカフェ in 九州」を以下のとおり開催します。

講師とファシリテータの掛け合いで気象に関する話題をわかりやすく解説し、コーヒーなどを飲みながら気象学の面白さ、奥深さなどに触れていただく催しです。

1. 日時：平成28年2月6日（土） 14:00～15:30
2. 場所：BIZCOLI（ビズコリ）交流ラウンジ
（福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号電気ビル共創館3F）
詳細は <http://www.bizcoli.jp/> のアクセスマップをご覧ください。
3. 講師：林政彦氏（福岡大学理学部地球圏科学科教授）
4. テーマ：「南極観測から地球環境を診る」
5. ファシリテータ（案内人）：
栗原めぐみ氏（気象予報士、熊本放送気象キャスター）



林政彦さん

- 主催：日本気象学会九州支部、
日本気象予報士会西部支部
- 後援：公益財団法人九州経済調査協会
- 参加費：500円
（コーヒーまたはソフトドリンクとお菓子の代金です。）
- 参加申し込み

このサイエンスカフェは完全予約制です。以下の事項を記入して電子メールまたはfaxでお申し込みください。定員（30名）に達した場合には、受付を終了します。

（記入事項）

- ・参加希望者のご氏名（複数の場合は参加者全員のご氏名をご記入いただき代表者がわかるようにしてください）
- ・参加希望者の年齢またはご職業（差し支えない範囲で結構です）



栗原めぐみさん

・連絡先（電子メールでお申し込みの場合で送信アドレスが連絡先である場合には省略可）

連絡先など個人情報については取り扱いに十分注意し、今回の催しの参加の可否のご案内および万一悪天等により中止せざるを得なくなった場合などの連絡に限り使用します。ただし、気象学会九州支部からメールにより今後のイベント等の連絡を引き続きご希望される場合には、「今後もメールでの案内を希望」とご記入ください。

- 申し込み先 気象学会九州支部事務局（福岡管区気象台防災調査課）
電子メール：info@msj-kyushu.jp
Fax : 092-725-3163

九州支部主催行事のお知らせ

「第 37 回 九州支部発表会」

九州大学新キャンパスで開催します

発表登録受付中

九州支部では、2015年度の発表会を次のとおり開催します。日ごろ取り組んでいる研究の成果の発表や議論などに多数のご参加をお願いします。プログラム等の詳細については、決まり次第九州支部ホームページに掲載します。

1. 開催日：2016年3月5日（土）
2. 会場：九州大学理学部（福岡市西区）（*）
（*）10月に移転した西区の伊都キャンパスです。
3. テーマ：特定のテーマは設定しません。気象学に関するものであれば原則自由です。
4. 発表申込：締切：2016年1月29日（金）必着
発表題目と講演者の氏名、所属、連絡先（電話、FAX、メールアドレス等）をお知らせください。
5. 発表要旨原稿提出：締切：2016年2月5日（金）必着
様式：A4判2ページ以内（カラー可）提出していただいた原稿をそのまま版下にして印刷できるよう、左右余白22mm、上余白22mm、下余白25mm（本文横166mm、縦250mm）で作成し、お送りください。
この様式のMicrosoft Word用のテンプレートをホームページ上に掲載しますのでダウンロードしてご利用ください。

提出様式：電子ファイル

Microsoft Word（バージョンは2003以降）ファイルまたはPDF形式ファイル。

提出方法：E-mailまたは郵送

6. 申込・問合せ先：

日本気象学会九州支部事務局

〒810-0052 福岡市中央区大濠一丁目2番36号

福岡管区気象台防災調査課内、担当：横山、高畑

Tel：（092）725-3614

Fax：（092）725-3163

E-mail：info@msj-kyushu.jp

九州支部ホームページ：<http://msj-kyushu.jp>

7. 口頭発表

発表時間は各課題15分（質疑応答を含む）を予定していますが、題数により変更することがあります。

8. 参加資格および旅費の補助

参加資格：発表は原則として気象学会員に限りませんが、特別な事情がある場合にはご相談ください。発表会の聴講は会員以外でも可能です。

旅費の補助：研究を本務としない発表者には、九州支部学会員の方に限り旅費を補助することもできますので、希望者は申込みの際にご相談ください。

開始時刻や会場の詳細（案内図など）、プログラムなどについては、決定次第順次支部ホームページに掲載してお知らせします。



九州大学ホームページより

支部会員からの便り

「平成 27 年夏、鹿児島県の記録的な大雨と台風」

海老原 智

鹿児島地方気象台長

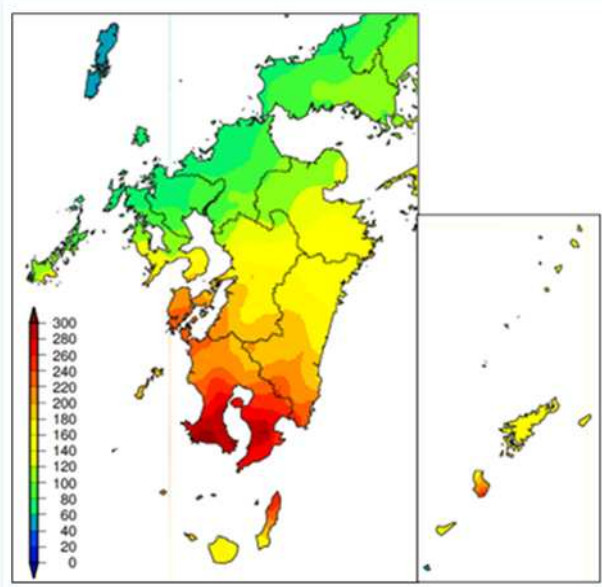
1. はじめに

鹿児島県では、5 月 29 日に口永良部島が噴火し火山噴火警戒レベル 5 の噴火警報が発表され全島避難となった。さらに、8 月 15 日には桜島で急激な地殻変動と火山性地震の急増によりレベル 4 の噴火警報が発表され一部の地域の住民が避難する事態となった。平成 19 年 12 月に噴火警報の運用が開始されて以降、特別警報に相当するレベル 4 以上の噴火警報が発表されたのはこの 2 回だけであり、全国的にも大きな話題となった。多くの人的被害が発生した平成 26 年の御嶽山の噴火は火山活動の規模としてはあまり大きなものではなかったことから、噴火直後にレベル 3 まで引き上げられたが、レベル 4 以上になることはなかった。

一方、鹿児島県ではこの夏の大雨と台風も記録的であり、気象の記録だけを見ると県内で 120 名近い死者を出し、近年最悪の夏となった平成 5 年に迫るものがあった。しかし、今年の場合は人的被害を含む大きな災害が発生しなかったことから、全国ニュースなどで取り上げられることは少なかった。本稿では、今年の鹿児島県の大雨と台風がどれだけ記録的なものであったかについて詳しく紹介したい。

2. 6 月の降水量が県内の広い地域で記録的

梅雨の季節には 1 ヶ月以上早い時期であったが、4 月 30 日～5 月 1 日にかけて、肝付町内之浦で 1 時間雨量 128.5mm、24 時間雨量 551.5mm の観測史上 1 位を記録するなど、大隅半島を中心に年間を通して記録的となる大雨が降った。6 月 2 日の梅雨入り後は県内各地で毎日のようにまとまった量の雨が続き、6 月の月降水量が鹿児島市で 1300.5mm と、ちょうど 100 年前の記録である大正 4 年の 994.5mm を大幅に上回った。これは、鹿児島市の年降水量の 6 割弱にあ



第 1 図 6 月の降水量の平年比 (%)

たり、例えば大阪市の年降水量にも相当する。ちなみに、鹿児島市の年間を通した月降水量の記録は平成 5 年 7 月の 1054.5mm であり、これをも大きく上回った。県内では他にも鹿屋市吉ヶ別府で 1681mm など、気象台の観測地点の半数以上で観測史上 1 位を記録した。

6 月の降水量の平年比を第 1 図に示す。大雨は九州南部、その中でも島嶼部を含む鹿児島県に集中し、県内の広い範囲で平年比 200～300%の雨量となった。

こうした状況の中、6 月 24 日には垂水市牛根で大規模な土石流が発生した（第 2 図）。これは 6 月に入ってから連日降り続いた大雨で溜まった地下水が関与した深層崩壊であるといわれている。このあと、7 月 5 日、28 日にも同じ場所で崩壊が起きたが、いずれもまとまった量の降雨から時間が経って発生しており、大雨の最中や直後に発生する通常の土砂崩れと違い、深層崩壊はいつ発生するか予測が難しい。これだけの規模の土石流になると、平成 9 年の鹿児島県出水市針原や平成 15 年の熊本県水俣市宝川内のように多数の犠牲者を出してしまう大災害になってもおかしくないが、今回は非住家である採石場事務所が全壊した他は床下浸水 1 棟に留まり、幸いにも人的被害は出なかった。



第 2 図 垂水市牛根の土石流（7 月 29 日に視察ヘリから筆者撮影）

（崩壊場所は右図右側の斜面。右図左側の斜面は採石場で崩壊ではない。左図のように土石流は河口まで流れ下った。）

3. 7 月も大雨がつづく

7 月に入っても大雨が続き、鹿児島県では平年の 1.5～2 倍、特に島嶼部では 3 倍前後の記録的な雨量となった。鹿児島市の 6 月と 7 月の降水量合計は 1830mm で、偶然にも平成 5 年 8 月豪雨の年と全く同じ雨量となった。6 月と 7 月の降水量合計は「梅雨期間」の降水量として統計がとられている。九州南部地方（奄美地方を除く）は鹿児島県と宮崎県内の気象台と特別地域気象観測所（旧測候所）の平均値を「梅雨期間」の降水量としており、表 1 のとおり、昭和 26 年（1951）の統計開始以降、1 位は平成 5 年（1993）の平年比 216%、

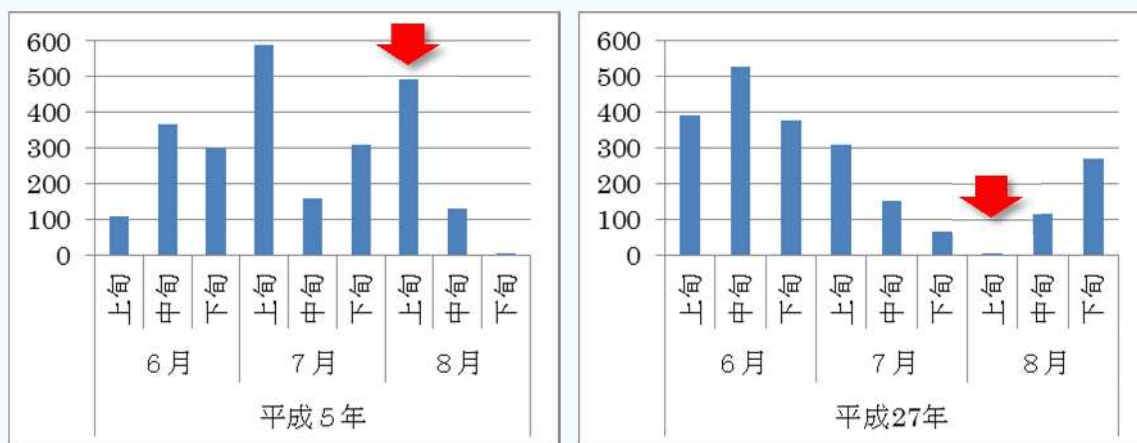
表 1 「梅雨期間」の降水量
（九州南部地方）

順位	年	平年比%
1	1993	216
2	2015	209
3	1954	178
4	2012	168
5	2010	163
6	2007	139
7	2011	135
8	2014	135
9	1972	133
10	1951	132

2 位が今年の 209%である。3 位は昭和 29 年（1954）の 178%まで下がるので、平成 5 年と今年の 2 年は突出している。今年の雨量がいかに多かったかがわかる。

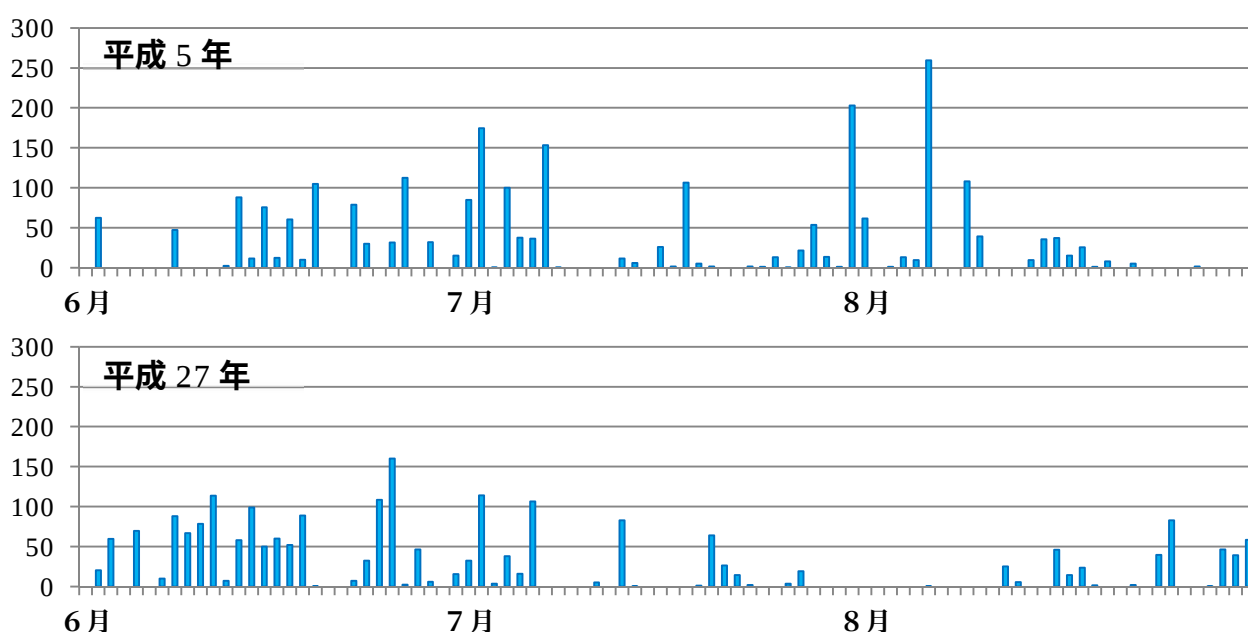
4. 8 月前半の好天が幸いした

鹿児島県内では 8 月の降水量も鹿児島市で 173%、枕崎市で 246%など、平年の 2 倍前後となった地域が多かったが、8 月前半に限ってみると好天が続きこの間は大雨は小休止となった。



第 3 図 平成 5 年と 27 年（今年）の鹿児島市の旬別降水量（mm）

第 3 図は 6 月～8 月の旬別の降水量について平成 5 年と今年を比較したものである。6 月と 7 月の合計雨量は両年とも同じだが、平成 5 年は 7 月にかけて雨量が多くなり、8 月上旬の大雨で一気に災害が広がった。8 月 1 日には現在の霧島市から鹿児島市北部を中心に大雨となり死者 23 名の大災害となった。さらに 8 月 6 日には鹿児島市を中心に大雨となり、日豊線竜ヶ水駅付近で発生した土石流で停車中の列車が直撃されたり、鹿児島市中心部を流れる甲突川が増水して石橋が流されたり市街地が浸水するなどの被害が発生し。人的被害も死者 48 名という大災害と



第 4 図 平成 5 年と 27 年の鹿児島市の日別降水量（mm）経過（6 月～8 月）

なった。気象庁では一連の豪雨をまとめて「平成 5 年 8 月豪雨」と命名しているが、地元ではそれぞれ 8.1 豪雨、8.6 豪雨と呼んで過去の教訓としている。なお、平成 5 年は 7 月までの「梅雨期間」にも 9 名の死者が出ている。

今年は平成 5 年とは逆に、6 月の雨量が最も多く 7 月は雨量は多いものの減少傾向となり、8 月上旬には一転して晴天が続いた。これが、死者を出すような大きな災害を免れた要因のひとつと思われる。8 月上旬にかけても大雨が続いたら平成 5 年と同様の大災害が発生していたかもしれない。まさに際どいところで大災害を回避できたと言っても過言ではない。

第 4 図は鹿児島市の 6 月～8 月の日別の降水量である。今年は期間合計の雨量は記録的に多くなったが、平成 5 年のように突出した日雨量になる日が少なかったことも幸いしたと思われる。

5. 台風第 15 号、昭和 26 年のルース台風以来か

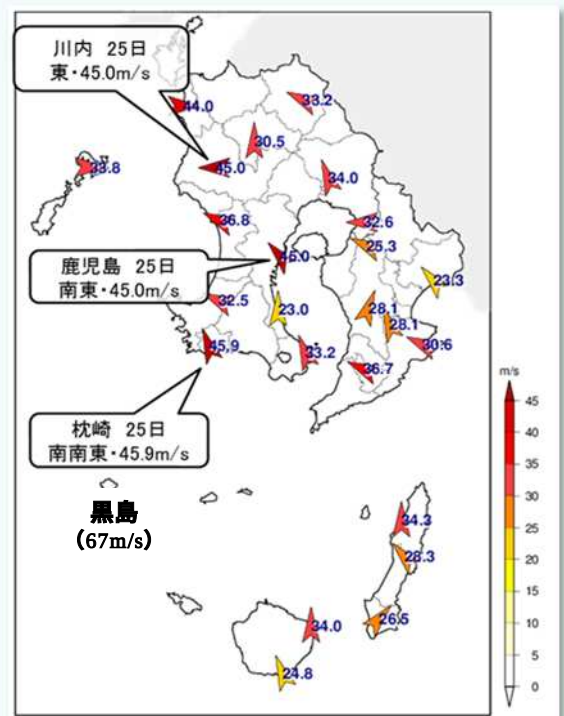
第 5 図は平成 27 年台風第 15 号の経路である。8 月 23 日に石垣島を通過した際に石垣市の観測史上 1 位となる最大瞬間風速 71m/s を記録した（全国歴代でも 8 位の記録）。台風通過後にテレビで、車が強風で裏返しになり一段高い植え込みまで吹き飛ばされた映像が現地から放送されたことは記憶に新しい。24 日には沖縄本島西海上で 930hPa と発達のパークに達し、25 日未明に 940hPa、最大風速 45m/s と非常に強い勢力を保ったまま薩摩半島の西岸に接近、鹿児島県長島町付近を通過して熊本県荒尾市付近に上陸した。（台風の勢力は事後解析のベストトラックによる）

第 6 図はアメダス等で観測された最大瞬間風速の分布である。気象庁の観測網では強いところでも 45m/s 程度であったが、台風がすぐ近くを通過した鹿児島県三島村の黒島では、役場の支所の風速計で 67m/s を観測した。黒島では、まるで強い竜巻が通過した痕のように民家が全壊する被害が出ている

第 7 図は台風第 15 号が石垣島、黒島、薩摩半島の南西端に位置する野間半島（南さつま市）付近を通過したときのレーダー画像である。石垣島、黒島とも、最も風の強い部分である台風進行方向右側の眼の壁雲付近が通過し 70m/s 前後の最大瞬間風速を観測している。野間半島も同じような部分が通過しており、このような



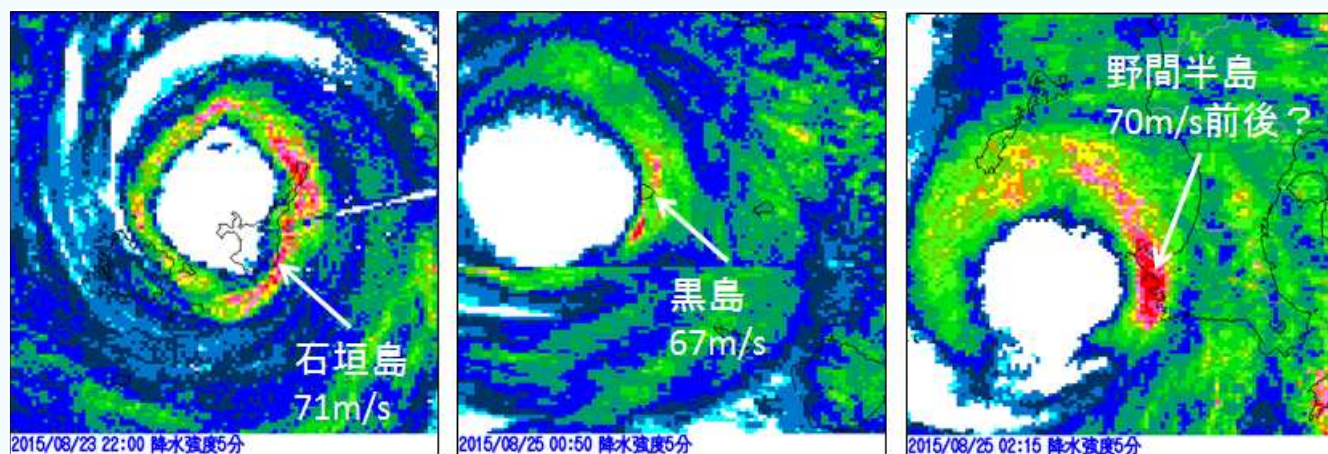
第 5 図 平成 27 年台風第 15 号(8 月)



第 6 図 鹿児島県内の最大瞬間風速

地域では同程度の風が吹いていた可能性が高い。薩摩川内市といちき串木野市が独自に設置した風速計では 50～60m/s の最大瞬間風速を観測している。地元の住民によると、野間半島の港では猛烈な風により 5 トンクラスの船が空中に浮いてから転覆したという話である。「昭和 26 年のルース台風と同じくらい大変な風が吹いた」など、地元では今回の台風をルース台風以来と言う人が多かった。

第 8 図はルース台風の経路である。第 5 図と比較すると、鹿児島県の西海上を



第 7 図 台風第 15 号通過時のレーダーエコー強度

通過するまでは、中心気圧、進路とも非常に良く似ている。両台風とも鹿児島県阿久根市付近を通過しており、通過時の気圧もほぼ同じであった。ただし、ルース台風は今回の台風より暴風域が広く規模は大きかったようである。

ルース台風は、大きな高潮被害もあったことから死者・行方不明者 943 名、住家全壊約 2 万 5 千棟などの甚大な被害をもたらした鹿児島県の災害史上特記すべき台風である。今回、ルース台風に迫る勢力の台風が通過したにもかかわらず、鹿児島県で人命にかかわる被害が出なかったことは特筆される。大きな高潮に至らなかったなどの幸運もあったが、戦後間もない時期である昭和 26 年当時に比べて、防災機関の対応や住民の意識の向上、防災インフラや気象情報の充実が実を結んでいるともいえる。

人命にかかわる被害こそなかったが、薩摩半島の西側の地域を中心に歴史的な建物が倒壊したり、広範囲の倒木により近年例のない長期間の停電となるなど、各地で大きな被害が出ている。鹿児島地方気象台では、この台風による気象記録や被害状況などの実態を明らかにするため、各自治体の観測データなどを収集して調査しており、結果は何らかの形で公表したいと考えている。

なお、平成 5 年には 9 月 3 日に台風第 13 号が薩摩半島南部に上陸し死者 33 名の被害を出している。上陸直前の中心気圧が 930hPa と、今で言うと特別警報を発



第 8 図 昭和 26 年台風第 15 号（10 月）ルース台風

表するような台風であった。この時期に非常に強い勢力の台風が接近・上陸したという点でも、今年と平成 5 年夏の天候は良く似ていた。

6. 最後に

鹿児島県では、口永良部島の噴火や記録的な大雨と台風に見舞われたが人命にかかわる被害は出なかった。長年防災に関わってきた人々の努力の成果も出ていると思うが、これは多くの幸運に恵まれた結果でもあり、今年の夏の天候については、少し状況が変われば大きな災害が発生していた可能性があったことを忘れてはならない。

参考資料

鹿児島県、鹿児島地方気象台：鹿児島県災異誌（1967）。

南日本新聞社：'93 夏 鹿児島風水害（1993）。

気象庁：気象庁技術報告第 116 号、平成 5 年 8 月豪雨調査報告（1993）。

福岡管区気象台：福岡管区気象台要報第 50 号、平成 5 年夏の不順な天候と台風第 13 号調査報告（1995）。

事務局からのお知らせ

「九州支部だより」の原稿募集

会員の皆様からの原稿を募集しています。

今号では、鹿児島地方気象台長の海老原智さんの原稿を掲載させて頂きました。ご投稿ありがとうございました。

メールアドレス登録のお願い

6 月下旬にメールアドレスの登録をお願いするハガキをお送りし、多数の方にご登録頂きました。ありがとうございました。現在、約 90%の方に登録頂いています。

メールアドレスをお持ちの方で現在未登録の方は、九州支部事務局 info@msj-kyushu.jp までお知らせください。

ホームページのお問い合わせフォームもご利用いただけます。

<http://msj-kyushu.jp/contact.html>

九州支部奨励賞の申請・推薦について

九州支部では、「支部奨励賞」の贈呈を行っています。奨励賞の対象となる方は、「気象学の向上に資する研究を行っている」「気象学の教育・啓蒙活動を積極的に行っている」「気象学を応用した活動で社会に貢献している」方々です。これらに該当する会員の申請・推薦をお願い致します。

申請・推薦のメ切は2015年12月末日までです。詳細は九州支部ホームページをご確認ください。 <http://msj-kyushu.jp/prize.html>

会員登録情報の変更について

転居や異動等により登録情報に変更が生じた際には、①または②の方法※で変更手続きをお願い致します。

①気象学会本部に連絡

WEB、FAX、郵送による変更が可能です。

詳しくは本部のホームページをご参照ください。

<http://www.metsoc.jp/about/join> (気象学会本部ホームページ)

②九州支部事務局に連絡

WEB、メール、郵送による変更が可能です。

※本部と九州支部のどちらにご連絡頂いても登録情報は更新されますが、両事務局で反映されるまでに時間差があります。冊子「天気」の発送先を即座に変更されたい方は本部へ、メールアドレスの登録・変更をご希望の方は九州支部事務局へのご連絡がお勧めです。

(九州大学関係の皆様、移転に伴う登録内容変更の手続きは個別にお願いします)

気象教室要旨集バックナンバー残部あります

今号で報告した第15回気象教室(テーマは「異常気象と地球温暖化」)および昨年(2014年)の第14回気象教室(テーマは「熱帯の気象」)の要旨集に残部があります。ご希望の方にお送りします。

気象学会に入会されていない方でも結構です。また、九州・山口地方以外の方でも結構です。ご希望の方は、事務局まで希望される要旨集(第14回、第15回)と送付先(住所、宛名)を書いたメモ、および返送用の切手(*)を同封の上、事務局までお送りください。

(*)郵送費:1部の場合 140 円、2部以上の場合は部数や組み合わせなどにより金額が異なりますので、事前に事務局までお問い合わせください。

2015 年 12 月発行

〒810-0052

福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台防災調査課内

日本気象学会九州支部

TEL: 092-725-3614

FAX: 092-725-3163

Mail: info@msj-kyushu.jp

HP: <http://msj-kyushu.jp/>